

第 50 回 横須賀市社会福祉審議会障害福祉専門分科会

日 時 令和 7 年（2025 年） 7 月 29 日（火）14 時 30 分から 15 時 30 分

会 場 横須賀市役所消防局庁舎 4 階 災害対策本部室

出席委員 高宮分科会長、清水職務代理者、海原委員、金子委員、松岡委員、松谷委員、山邊委員

事 務 局 障害福祉課 八橋課長、窪係長、金子

議 題 第 7 期横須賀市障害福祉計画（第 3 期横須賀市障害児福祉計画）の進行管理および取り組み
状況についてと総括について ほか

配布資料 別紙次第

審議概要

1 定足数報告・一般傍聴報告

- ①事務局が司会となり開会した
- ②配布資料を確認した
- ③定員数 8 名中、7 名の出席があり、会議が成立している旨を報告した
- ④傍聴の申し出はなかった

2 議事

（1） 分科会長の選出及び職務代理者の氏名について

- ① 事務局から、分科会長の選出について立候補または推薦を求めた。
- ② 山邊委員から、高宮委員を分科会長に推薦する発言があった。
- ③ この発言に対して異議はなく、高宮委員に就任いただけるか確認したところ、承諾いただいたので、分科会長は高宮委員に決定した。
- ④ 事務局から、職務代理者の選出について分科会長による指名を求めた。
- ⑤ 高宮分科会長から、清水委員を職務代理者に指名する発言があった。
- ⑥ この発言に対して異議はなく、清水委員に就任いただけるか確認したところ、承諾いただいたので、職務代理者は清水委員に決定した

（2） よこすか障害者計画の概要について

- ① 事務局から、資料に基づき、説明が行われた。
- ② 各委員から、質疑が行われた。

（3） 第 7 期横須賀市障害福祉計画（第 3 期横須賀市障害児福祉計画）の進行管理および取り組み状況について

- ① 事務局から資料に基づき、説明が行われた。
- ② 各委員から質疑が行われた。

（4） その他

- ① 事務局から連絡事項の共有が行われた。

質疑内容

(2) よこすか障害者計画の概要について

●金子委員

審議会については、資料や議事録をホームページで公開することで市民に向けて情報発信がなされていると思うが、可能な限り速やかに公開されるようにお願いしたい。

●高宮委員

横須賀市公式LINE等のSNS活用が、情報発信の手法として有効なのではないか。

●事務局

ホームページの速やかな更新に努める。SNSでの情報発信については、ホームページ上に資料や議事録が公開されたことのお知らせを通知することは可能。検討させていただきたい。

(3) 第7期横須賀市障害福祉計画（第3期横須賀市障害児福祉計画）の進行管理および取り組み状況について

●海原委員

訪問系サービスにおいては、見込量と実績に差があるサービスもある。サービス提供を行う人材を確保していくことに課題がある状況であることもあり、今後はニーズに応えるための受け皿をどのように増やしていくのかにまで踏み込んで検討していく必要があるのではないか。

令和4年度末時点と比較して、入所施設利用者数が2名減とのことだが、退所した2名のその後の生活の場等、分析があれば教えていただきたい。

●事務局

福祉人材の不足と言われる中で、特障害福祉分野は支援の個別性も高く、特に困難な状況と認識している。まずは、離職防止のために、支援者間のネットワーク強化が必要と感じている。また、障害福祉の仕事の魅力の発信等についても、関係者の皆さまで一緒に考えていきたい。

2名の方のその後の生活の場等については、確認ができていない。令和6年度に施設入所者の地域移行支援の実績はなかったため、おそらく高齢者施設への移行ではないかと考えている。

●金子委員

地域移行支援の実績については、医療機関等に長期入院をされている精神障害のある方ということか。

地域移行支援によって在宅に戻った後に地域定着支援を利用することが想定される。しかし、共同生活援助へ入居する場合には、支給ができない等もあり、実態としては相談支援専門員が似た役割の支援を行っていても、実績として数字に表れないものもあると感じている。

●事務局

令和6年度の地域移行支援の実績については、おっしゃる通り。

地域定着支援については、サービス自体の認知も少ないような印象がある。そうしたところも含め、サービス利用が伸びていくような取り組みを検討したい。

●海原委員

全国的な傾向でもあるが、共同生活援助の指定が増えており、厚労省が総量規制の議論を始めている。共同生活援助については、横須賀市においても障害福祉計画での見込量以上に増えている一方で、重度障害者の受け皿は不足している状況にある。今後、障害福祉計画の見込量と事業所の新規指定の連動性についてどのように考えていくのか。

●事務局

障害福祉計画と事業所指定については、連動性をもたせた方が良く考えている。そのためには、単なる見込量ではなく、地域毎の配置や、対象となる障害者像を明確にする等、不足している資源を見えるようにした上で、見込量の設定していく必要があると考えている。

●山邊委員

障害者と障害児、それぞれの移動支援事業の実績の記載がないが、どのような傾向か。

障害児通所支援については、見込量に対して実績が少ない。今後、子どもの人口が減っていくと想定されるがいかがか。

●事務局

システム改修によって、障害者と障害児に分けた形で実績が抽出できなくなってしまった。数値での把握はできていないが、この計画策定の時点と同様に、新たに移動支援事業を利用することが難しくなっているため、利用している障害児が成長によって障害者となり、結果として障害児の実績は減少しているのではないかと思う。

現在の見込量は、実績に基づいて算出している。次期計画から導入できるかは、検討の必要があると思うが、人口等に基づいた将来推計と実績を合わせて、見込量の作成ができないか考えていきたい。

●金子委員

面的整備としての地域生活支援拠点等を構成する事業所の設置か所数が、5か所とのことだが、障害者相談サポートセンターが登録されているということか。

●事務局

西・北下浦地区の障害者相談サポートセンターが、令和6年度末で受託終了することが明らかであったため、4か所の障害者相談サポートセンターと、1か所の短期入所事業所を登録している。令和7年度新たに西・北下浦地区の障害者相談サポートセンターを受託した法人と、現在登録の手続き中である。

(4) その他

●事務局

前回の分科会で、障害福祉計画策定にあたって、障害者を対象に実施するアンケートについて、例年であれば策定年度に実施していたが、アンケート内容や分析を丁寧に行いたいと考え、計画策定年度の前年である令和7年度に前倒しして実施することをご承認いただいた。また、本来であればアンケート内容については分科会で審議をしていくものであるが、開催回数に限りがあることから、障害とくらしの支援協議会の中で、ワーキンググループを設置し、そこで審議をしていくことについてもご承認いただいた。

障害とくらしの支援協議会のワーキンググループは、5月から、月1回程度の頻度で協議中。9月頃にはアンケート内容の確定をし、11月頃にアンケートを実施したいと考えている。次回分科会の際に、報告する。